

科目名	身体障害治療学実習Ⅰ				授業の種類	実習	講師名	
授業回数	23回	時間数	45時間	(1単位)	配当学年・時期	作業療法士科3年	必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕								
身体障害領域（中枢神経疾患を中心）の作業療法における評価法や治療計画の立案およびその介入までの基本的な流れについて学習する。								
〔授業全体の内容の概要〕								
身体障害領域（中枢神経疾患中心）において、各疾患の特徴・障害像・評価法・作業療法アプローチの基礎を学習する。また、対象者への生活背景への繋がりについても一部その視点を養う。								
〔講師の実務経験〕								
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕								
身体障害領域（中枢神経疾患を中心）における作業療法の考え・目的・流れなど基本的な考えを説明が出来る。また各疾患の病態・症状などを理解し説明でき、更に、評価項目の列挙・評価の目的・評価結果の意味が説明できる。								
回数	講義内容							
1	身体障害の作業療法の基礎							
2	身体障害の作業療法の枠組み							
3	身体障害作業療法治療学実践 関節可動域訓練							
4	身体機能作業療法の実践 不随意運動							
5	身体機能作業療法の実践 筋緊張異常							
6	身体機能作業療法の実践 協調運動障害							
7	身体機能作業療法の実践 物理療法と浮腫の基礎							
8	身体機能作業療法の実践 脳血管障害(急性期・回復期・維持期)①							
9	身体機能作業療法の実践 脳血管障害(急性期・回復期・維持期)②							
10	身体機能作業療法の実践 脳血管障害(評価から治療) ①FMAを含む							
11	身体機能作業療法の実践 脳血管障害(評価から治療) ②ARAT・BBTを含む							
12	身体機能作業療法の実践 脳血管障害(CT・MRIの診かた) ①							
13	身体機能作業療法の実践 脳血管障害(CT・MRIの診かた) ②							
14	身体機能作業療法の実践 脳血管障害(CT・MRIの診かた) ③							
15	身体機能作業療法の実践 脳血管障害(ADL) 片手動作を中心に							
16	身体機能作業療法の実践 脳血管障害（リスク管理を含む）							
17	身体機能作業療法の実践 脳血管障害（脳外傷と高次脳機能障害）							
18	身体機能作業療法の実践 骨・関節疾患①							
19	身体機能作業療法の実践 骨・関節疾患②（末梢神経障害を含む）							
20	身体機能作業療法の実践 関節リウマチ							
21	身体機能作業療法の実践 骨・関節疾患③ 移乗・移動							
22	身体機能作業療法の実践 廃用症候群・ポジショニングとシーティング							
23	身体機能作業療法の実践 手の外科・装具療法・まとめ							
	定期筆記試験							

【 準備学習・時間外学習 】

--

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
標準作業療法学 作業療法評価学	岩崎テル子	医学書院
標準作業療法学 身体機能作業療法学	〃	医学書院

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

履修規定に準じ、試験の結果を100点満点として60点以上の場合に合格とする
